

(78) 地下から地上へ逃げるのにさらに地下へ降りる？

最近、地下鉄千代田線の「霞ヶ関駅」のホームから地上へ出るのに、階段を一階分下って地下二階にある改札口を通り抜け、改めて地上に出る階段やエスカレーターを2階分登ってようやく外へ出られるのです。

現役のサラリーマン時代は、毎日のように利用していても何とも思わなかったのですが、一市井人の目で見るとこれは少々不思議なことです。

災害や事故で地下にいる人が地上へ脱出しようとするときは、反射的に登り階段を探すはずですから、これは人間の感覚や本能を無視した構造です。

こんな地下鉄ホームがあるかと探すと、他にも銀座線に「溜池山王駅」と「表参道駅」がありました。

表参道駅は銀座線を含め計3路線の乗り換え駅になっていて地下2階のコンコースは乗り換え客が右往左往して大変混み合うのですが、それを目当てにしてかコンビニ、ケーキ店など店舗が立ち並んでいます。

万一この地下2階で火災が発生すると、煙や炎は階段を介して地下一階のホームの方へ上昇しますから、ホームの乗客は煙の上昇してくる階段を下るという常識に反する行動をとらないと逃げられません。

さもないければ、トンネル内の線路上を歩いて隣の駅へ逃げるということになりますが、地下鉄銀座線は第3軌条から電気をとるので、人が歩くのは非常に危険が伴います。

又、豪雨で地下鉄に大量に雨水が侵入したときは、当然のこと地下2階から浸水するでしょうから、ホームの乗客は逃げ道を絶たれることになります。

いずれにしても地下1階から地上へ逃げるのに、いったん地下2階へ下るという構造は、災害等の異常時のリスクは大きいのです。

ホームにある出口の方向を示す案内表示も、ここから地上へ出るにはいったん地下2階へ降りる必要があるということを認識させる注意書きが必要だと思います。